

1976年 大会記録

国際

◇モンゴル国際トーナメント=フリースタイル(3月6~8日、モンゴル・ウランバー

トル)

▼52kg級 富田俊三(日体大) = 二失、▼74kg級 河合一守(専大) = 二失

◇モントリオール五輪(7月17日~8月1日、カナダ・モントリオール)

《フリースタイル》▼48kg級 工藤章(三信電気) = 3位、▼52kg級 高田裕司(日体大研) = 優勝、▼57kg級 荒井政雄(斎藤道場) = 3位、▼62kg級 前川健吉(自衛隊) = 四失、▼68kg級 菅原弥三郎(国士舘大教) = 3位、▼74kg級 伊達治一郎(国士舘大教) = 優勝、▼82kg級 茂木優(秋田・秋田商高教) = 四失、▼90kg級 谷津嘉章(日大) = 四失、▼100kg級 清水一夫(大東大) = 6位、▼100kg以上級 磯貝頼秀(ゼネラル石油) = 6位

《グレコローマン》▼48kg級 森脇由比(日体大) = 4位、▼52kg級 平山紘一郎(自衛隊) = 3位、▼57kg級 菅芳松(自衛隊) = 4位、▼62kg級 宮原照彦(長崎・長町工高教) = 4位、▼68kg級 小林武(自衛隊) = 三失、▼74kg級 長友寧雄(警視庁) = 三失、▼82kg級 高西一宏(和歌山県体教) = 6位、▼90kg級 佐藤貞雄(徳山大教) = 三失、▼100kg級 秋山安成(自衛隊) = 二失、▼100kg以上級 松永清志(日体大) = 二失

◇世界少年選手権()

▼38kg級 大矢茂樹(東京・町田二中)、▼42kg級 田村英樹(東京・日大三中)、▼46kg級 広沢忠(静岡・豊田中)、▼50kg級 奥谷寛治(茨城・桜丘中)、▼55kg級 遠峯正文(茨城・大洗南中)、▼60kg級 小坏祐三(茨城・大洗南中)、▼65kg級 和田博義(茨城・大洗南中)、▼75kg級 黒田貢(茨城・明光中)、▼75kg以上級 染谷徹(千葉・野田一中) = 5位

国内

◇モントリオール第2次選考会(2月27~29日、東京・青少年総合センター)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 藤沢信雄(大東大)、▼52kg級 高田裕司(日体大)、▼57kg級 佐々木禎(日体大)、▼62kg級 前川健吉(自衛隊)、▼68kg級 菅

原弥三郎（国士舘大教）、▼74kg級 伊達治一郎（国士舘大教）、▼82kg級 茂木優（秋田・秋田商高教）、▼90kg級 鎌田誠（自衛隊）、▼100kg級 石井信也（東海大）、▼100kg以上級 宮安晋（東京・国士舘高）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 森脇由晃（日体大）、▼52kg級 平山紘一郎（自衛隊）、▼57kg級 菅芳松（自衛隊）、▼62kg級 宮原照彦（佐賀県教員）、▼68kg級 小林武（自衛隊）、▼74kg級 長友寧雄（警視庁）、▼82kg級 高西一宏（国士舘大）、▼90kg級 藤田芳弘（和歌山県体育館）、▼100kg級 秋山安成（自衛隊）、▼100kg以上級 松永清志（日体大）

◇全国高校選抜大会（4月5～6日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 鹿児島・鹿児島商工、[2] 新潟・北越商、[3] 秋田・五城目、静岡・修善寺工

《個人戦優勝者》▼48kg級 入江隆（茨城・土浦日大）、▼52kg級 石原宗良（群馬・館林）、▼56kg級 杉野浩吉（鹿児島・鹿児島商工）、▼60kg級 石神光秀（鹿児島・鹿児島商工）、▼65kg級 児玉康男（鹿児島・鹿児島商工）、▼70kg級 山下幸一（鹿児島・鹿児島商工）、▼75kg級 保坂竹道（秋田・五城目）、▼75kg以上級 西塚（新潟・北越商）

◇全日本選手権（4月28～29日、東京・東京体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 工藤章（三信電気）、▼52kg級 高田裕司（日体大研）、▼57kg級 山路明（国士大）、▼62kg級 上田保隆（日体大研）、▼68kg級 菅原弥三郎（国士大）、▼74kg級 伊達治一郎（国士大教）、▼82kg級 出河満男（自衛隊）、▼90kg級 谷津嘉章（日大）、▼100kg級 清水一夫（大東大）、▼100kg以上級 磯貝頼秀（ゼネラル石油）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 森脇由晃（日体大）、▼52kg級 平山紘一郎（自衛隊）、▼57kg級 菅芳松（自衛隊）、▼62kg級 宮原照彦（長崎・鹿町工高教）、▼68kg級 伊藤公洋（佐賀県職）、▼74kg級 長友寧雄（警視庁）、▼82kg級 高西一宏（国士大職）、▼90kg級 佐藤貞雄（徳山大職）、▼100kg級 秋山安成（自衛隊）、▼100kg以上級 松永清志（日体大）

◇全日本社会人選手権（5月5～6日、東京・青少年スポーツセンター）

《団体戦・官公庁優勝》朝霞自衛隊B、《同・実業団対抗優勝》三信電気、《同・クラブ対抗優勝》八戸クラブ、《同・三部対抗優勝》朝霞自衛隊A

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 高村勝義（三重ク）、▼52kg 級 菊田順宏（自衛隊）、▼57kg 級 荻場勇光（自衛隊）、▼62kg 級 山崎徳夫（和歌山県教員）、▼68kg 級 平松義高（自衛隊）、▼74kg 級 藤田末広（茨城自衛隊）、▼82kg 級 内藤可三（羽沢ク）、▼90kg 級 畠山仁美（三重ク）、▼100kg 級=参加なし、▼100kg 以上級=参加なし

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 高村勝義（三重ク）、▼52kg 級 菊田順宏（自衛隊）、▼57kg 級 円大海（自衛隊）、▼62kg 級 乙守豊（アイシン精機）、▼68kg 級 西村盛正（羽沢ク）、▼74kg 級 園山浩（木口道場）、▼82kg 級 今村民夫（自衛隊）、▼90kg 級 畠山仁美（三重ク）、▼100kg 級=参加なし、▼100kg 以上級=参加なし

◇西日本学生春季新人戦（ ）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 徳永俊太（同志社大）、▼52kg 級 岡井正憲（近大）、▼57kg 級 元山淳（近大）、▼62kg 級 加藤輝義（近大）、▼68kg 級 勝浦昭夫（名城大）、▼74kg 級 中谷安典（同志社大）、▼82kg 級 宮田有恒（関大）、▼82kg 以上級 高橋勝人（関大）

※フリースタイルのみ

◇東日本学生リーグ戦（5月6～14・30日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 日体大（5年ぶり2回目）、[2] 専大

（A組順位）[1] 日体大、[2] 国士大、[3] 日大、[4] 東洋大、[5] 拓大、[6] 東農大

（B組順位）[1] 専大、[2] 明大、[3] 八戸工大、[4] 大東大、[5] 中大、[6] 法大

◇西日本学生春季リーグ戦（5月21～23日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 福岡大（3季ぶり5回目）、[2] 大体大、[3] 近大、[4] 同志社大、[5] 桃山学院大、[6] 関大

◇東日本学生春季新人戦（6月13～16日、東京・青少年総合センター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 藤本賢一（日体大）、▼52kg 級 清水清人（日体大）、▼57kg 級 大館修（国士舘大）、▼62kg 級 南正昭（日体大）、▼68kg 級 中村伸（国士舘大）、▼74kg 級 石井恵次（日大）、▼82kg 級 太田章（早大）、▼90kg 級 玉規均（東洋大）、▼90kg 級以上 島村和男（大東大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 藤本賢一（日体大）、▼52kg 級 朝倉利夫（国士舘大）、▼57kg 級 大館修（国士舘大）、▼62kg 級 伊藤正男（専大）、▼68kg 級 中村伸（国士舘大）、▼74kg 級 松本啓志（日大）、▼82kg 級 鈴木光（日大）、▼90kg 級 大島哲（中大）、▼90kg 級以上 大湊康訓（中大）

◇西日本学生選手権（6月25～27日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 森表芳一（近大）、▼52kg 級 鍛冶川大禎（大体大）、▼57kg 級 田中孝芳（大体大）、▼62kg 級 永田満寿（福岡大）、▼68kg 級 高田文孝（近大）、▼74kg 級 長谷川雄一（名商大）、▼82kg 級 吉田信成（大体大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 森表芳一（近大）、▼52kg 級 鍛冶川大禎（大体大）、▼57kg 級 田中孝芳（大体大）、▼62kg 級 中岡正作（近大）、▼68kg 級 高田文孝（近大）、▼74kg 級 竹之内昭弘（大体大）、▼82kg 級 堀之内大介（同志社大）

◇インターハイ（8月2～5日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 栃木・足利工大付、[2]、[3]、

《個人戦優勝者》▼48kg 級 入江隆（茨城・土浦日大）、▼52kg 級 横山勝正（青森・光星学院）、▼56kg 級 杉野浩吉（鹿児島・鹿児島商工）、▼60kg 級 石神光秀（鹿児島・鹿児島商工）、▼65kg 級 児玉康男（鹿児島・鹿児島商工）、▼70kg 級 山下幸一（鹿児島・鹿児島商工）、▼75kg 級 保坂竹道（秋田・五城目）、▼75kg 以上級 相沢伸彦（栃木・足利工大付）

◇全日本学生選手権（8月31日～9月3日、東京・東京体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 吉田三修（東洋大）、▼52kg 級 丸山末吉（国士舘大）、▼57kg 級 山路明（国士舘大）、▼62kg 級 堀井健一（国士舘大）、▼68kg 級 平沼義範（中大）、▼74kg 級 小柳美代志（明大）、▼82kg 級 長谷川正治（明大）、▼90kg 級 清水一夫（大東大）、▼90kg 級以上 谷津嘉章（日大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 福山雄三（日体大）、▼52kg 級 碓桂輔（国士舘大）、▼57kg 級 山路明（国士舘大）、▼62kg 級 堀井健一（国士舘大）、▼68kg 級 南敏文（日体大）、▼74kg 級 鈴木寛（法大）、▼82kg 級 長谷川正治（明大）、▼90kg 級 藤森安一（日体大）、▼90kg 級以上 石井達也（東海大）

◇全日本学生王座決定戦（10月5～6日、東京・駒沢体育館）=決勝成績

日体大○ [5 - 4] ●国士舘大

※日体大は5年ぶり2度目の優勝

◇東日本学生グレコローマン選手権（ ）=決勝成績

※

◇西日本学生秋季新人戦（10月2～3日、大阪・桃山学院大）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 祥口善行（近大）、▼52kg級 鍛冶川大禎（大体大）、▼57kg級 岡井正憲（近大）、▼62kg級 前田善代（同志社大）、▼68kg級 日向鉄也（近大）、▼74kg級 平山忠央（同志社大）、▼82kg級 中谷安典（同志社大）、▼82kg以上級 高橋勝人（近大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 国口善行（近大）、▼52kg級 鍛冶川大禎（大体大）、▼57kg級 岡井正憲（近大）、▼62kg級 小倉秀堂（近大）、▼68kg級 河村鉄也（近大）、▼74kg級 西川雅弘（関大）、▼82kg級 中谷安典（同志社大）、▼82kg以上級 正田隆男（大体大）

◇国体（10月25～28日、佐賀・鹿島市民体育館、鹿島実高）

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg級 藤沢信雄（静岡・大東大）、▼52kg級 刈場勇光（青森・自衛隊）、▼57kg級 山路明（鹿児島・国士舘大）、▼62kg級 多賀恒雄（新潟・明大）、▼68kg級 斎藤勝彦（秋田・秋田経法大付高教）、▼74kg級 小柳美代志（秋田・明大）、▼82kg級 畠山仁美（三重・自衛隊）、▼90kg級 太田章（秋田・早大）、▼100kg級 茂木優（秋田・秋田商）、▼100kg以上級 磯貝頼秀（千葉・ゼネラル石油）

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg級 森脇由晃（和歌山・日体大）、▼52kg級 円大海（埼玉・自衛隊）、▼57kg級 柏木究（徳島・国士舘大）、▼62kg級 田上高（鹿児島・伊佐農林高）、▼68kg級 小林武（埼玉・自衛隊）、▼74kg級 野口次男（鹿児島・自衛隊）、▼82kg級 高西一宏（徳島・徳島教育庁）、▼90kg級 藤田芳弘（和歌山・和歌山県教育庁）、▼100kg級 斎藤真（千葉・浦安高教）、▼100kg以上級 松永清志（東京・日体大）

《少年フリースタイル優勝者》▼48kg級 菅沼亨（東京・中大付）、▼52kg級 河村稿一郎（山口・桜ヶ丘）、▼56kg級 杉野浩吉（鹿児島・鹿児島商工）、▼60kg級 石井光秀（鹿児島・鹿児島商工）、▼65kg級 児玉康男（鹿児島・鹿児島商工）、▼70kg級 板橋昇悦（秋田・秋田経法大付）、▼75kg級 保坂竹道（秋田・五城目）、▼81kg級 佐々

木貢（青森・八戸工）、▼87kg 級 相沢伸彦（栃木・足利工大付）、▼87kg 以上級 山本邦寿（佐賀・鳥栖工）

《少年グレコローマン優勝者》▼48kg 級 畑中末吉（青森・八戸工大一）、▼52kg 級 斎藤秀雄（三重・松阪工）、▼56kg 級 大竹信孝（福島・田島）、▼60kg 級 深作利夫（茨城・土浦日大）、▼65kg 級 鈴木優一（山形・山形商）、▼70kg 級 鈴木寛則（山形・山形南）、▼75kg 級 茅原功（新潟・新潟東工）、▼81kg 級 藤村哲文（山口・桜ヶ丘）、▼87kg 級 寺井忠（青森・八戸工大一）、▼87kg 以上級 山内英徳（青森・八戸工大一）

◇全日本大学選手権（11月6～7日、大阪・桃山学院大体育館）

《優勝者》▼48kg 級 朝倉利夫（国士舘大）、▼52kg 級 清水清人（日体大）、▼57kg 級 山路明（国士舘大）、▼62kg 級 多賀恒雄（明大）、▼68kg 級 平沼義範（中大）、▼74kg 級 小柳美代志（明大）、▼84kg 級 長谷川正治（明大）、▼90kg 級 藤森安一（日体大）、▼90kg 以上級 松永清志（日体大）

《大学対抗得点》[1] 国士舘大（初優勝）、[2] 専大、[3] 明大

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月21～23日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 近大（12季ぶり4度目）、[2] 大体大、[3] 福岡大、[4] 同志社大、[5] 関学大、[6] 桃山学院大

◇東日本学生秋季新人戦（11月29日～12月2日、東京・青少年総合センター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 吉田三修（東洋大）、▼52kg 級 朝倉利夫（国士舘大）、▼57kg 級 富山英明（日大）、▼62kg 級 藤田良穂（中大）、▼68kg 級 高橋恒弘（専大）、▼74kg 級 名雪正紀（中大）、▼82kg 級 鈴木光（日大）、▼90kg 級 太田章（早大）、▼90kg 級以上 島村和男（大東大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 吉田三修（東洋大）、▼52kg 級 藤本賢一（日体大）、▼57kg 級 柏木究（国士舘大）、▼62kg 級 大池巳喜男（国士舘大）、▼68kg 級 近藤光弘（日体大）、▼74kg 級 山田真一（国士舘大）、▼82kg 級 太田章（早大）、▼90kg 級 堀川和宣（日大）、▼90kg 級以上 島村和男（大東大）